

OneRoster/Learning Information Services/Edu-API

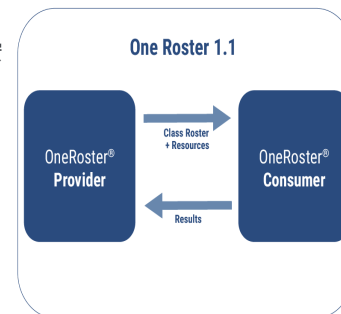


[公開ドキュメント](#) | [メンバーリソース](#) | [背景](#) | [学習情報サービス](#) | [Edu-API](#)

概要

OneRoster® 1.1は、システム間で名簿情報、コース教材、成績を安全かつ信頼性のある交換をするという学校のニーズを解決します。OneRosterは、交換によく使用される.csvモードと、RESTとして知られる最新のリアルタイムWebサービスモードをサポートします。

簡単な [OneRoster Video](#) をご覧ください



画像をクリックしてフルサイズバージョンをご覧ください



学生情報システム (SIS) や学習管理システム (LMS) などのさまざまなプラットフォーム間で、学生、コース、および関連する登録情報を含む**主要な名簿関連データをプロビジョニング**します。



教育機関のニーズや機能に合わせて**柔軟な実装オプション**を提供し、REST APIを使用したシステム間の交換だけでなく、簡単なスプレッドシート形式 (CSV) の交換もサポートしています。



名簿とgradebookの情報を使用して複数のシステム間の**データ交換を改善**し、問題が発生する前にそれを排除します。



LMSからSISに学生の得点などを戻すように、アプリケーション間で**採点結果を送信**します。

あなたの製品はIMSグローバルの認証を取得していますか？

IMS Globalには、特定の標準および標準の機能に準拠した製品の認証取得を可能にするテストプログラムがあります。テクノロジー・サプライヤにとって、IMS Global認証プロセスへの参加は、製品統合を達成するための最速かつ最も費用対効果の高い方法です。教育機関にとって、あなたの教育テクノロジーツールがIMS Global認証を取得しているかどうかを確認することは、プラグ&プレイ・エコシステムに、ツールとコンテンツをシームレスに連携させ、より多くの選択肢を与え、総所有コストの削減を確立する最善の方法です。IMS Global [メンバー](#) は、標準適合認証を完了する前に、標準を実装するための専門家のサポートにアクセスすることができます。[認証](#)の利点を活用するための詳細については、こちらをご覧ください。

公開文書

- [OneRoster 1.1の概要](#)
- [OneRoster 1.1リアルワールドシナリオ](#)

技術仕様書

- [OneRoster 1.1仕様書 \(CSV Tables\)](#)
- [OneRoster 1.1仕様書 \(REST API\)](#)
- [OneRoster 1.1ベストプラクティスおよび実装ガイド](#)
- [OneRoster 1.1コンフォーマンスガイド \(適合性ガイド\)](#)

メンバーリソース (ログインが必要です)

サプライヤー/開発者

- [お使いの製品のIMSの適合認証を取得する方法](#)

教育機関

- [OneRoster 1.1の計画と調達ガイド](#)
- [OneRoster 実装のFAQ](#)

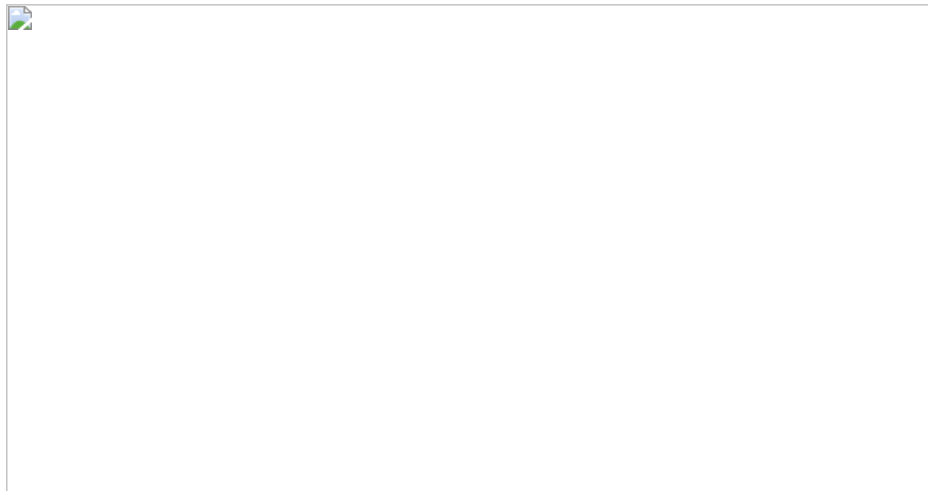
以前のバージョンの仕様書

[IMS OneRoster v1 実装 - 最終版](#)

[IMS OneRoster v1 CSVテーブル - 最終版](#)



OneRosterは、現代的で、使いやすい、名簿作成、コース設定や成績結果の報告のためのデータ交換です。OneRosterはCommon Cartridgeと、LTI対応のThin Common Cartridge Tを実装したクラウドベースのコンテンツのサポートを含んだ、あなたのデジタルカリキュラムと自動化戦略の重要な要素でなければなりません。



仕様に関するフィードバックは、私たちの [パブリックフォーラム](#) 歓迎されます。

Learning Information Services の背景

The Learning Information Services (LIS) の仕様は、システムが学習のコンテキストの中で、人、グループ、メンバーシップ、コースとそのアウトカムを説明する情報のやり取りを管理する方法の定義です。LIS v2.xの仕様は、IMS GLC Enterprise Services v1.0の仕様を優先しています。LISの仕様は、個人管理、グループ管理、メンバー管理、コース管理、アウトカム管理およびバルクデータ交換管理サービスを集約した仕様に基づいています。LIS v2.0は、(SOAPのHTTPトランスポート・メカニズムに基づいた) WebサービスインフラストラクチャとLDAP (Lightweight Directory Access Protocol) の両方を使用して実装されています。実装はありとあらゆるサービスをサポートする必要はありません。ありとあらゆる操作をサポートするための実装は必要ありません。相互運用性は、ドメインプロファイ

ルを使用して最良の定義がされています。この仕様には、高等教育のために、このようなプロファイルが含まれています。相互運用性は、同じプロファイルを実装するシステム間でサポートされています。LISのドキュメントの構成は次のとおりです。

- LISの仕様 - LISは、6つのコンポーネントサービスを使用して、どのように構成されているか説明します。
- 情報モデルは、 - これらの文書は、さまざまなサービスの定義、データ構造、およびそれらの関係の規範となる記述が含まれています。6つのそれぞれのサービスには、独自の情報モデルがあります。
- バインディング文書 - それぞれの情報モデルには、関連するWSDLバインディング文書があります。それぞれのサービスには、LDAPバインディング文書があります。
- ベストプラクティス & 実装ガイド - これはIMS-GLCのLISの仕様と、その仕様とその他のIMS-GLC仕様との関係性の全体的な理解、そしてその仕様を使用した経験から得られたベストプラクティスガイドをベンダーに提供することを意図しています。そのガイドでは、ベンダーがIMSのLISの仕様を最大限に活用する方法について説明している、いくつかの実例を含んでいます。
- コアプロファイルと適合仕様 - LIS仕様のプロファイルのセットが作成されました。コアプロファイルは、高等教育機関での展開のために開発されたシステムによってサポートされなければならない機能の最小サブセットとして定義されています。これらのプロファイル（コアにいくつかの追加がプラスされています）は、LIS内のサービスのセットをサポートするシステムによって、サポートされなければならない操作とデータモデルのセットとして定義されています。各プロファイルには、テストされ検証されたシステムに対する適合性の仕様が含まれています。
- バインディングファイル - LIS仕様のアウトプットの一つで、Webサービス記述言語/ファイルを結合したXMLスキーマ定義（WSDL / XSD）のセットです。各サービスには、WSDL / XSDファイルの独自のセットがあります。SOAPメッセージとXMLデータ構造を扱うソースコードを作成するためのコード生成ツールによって使用されているのが、これらのファイルです。いくつかの小さな変更は、Webサービスの実際のサーバーベースの実装にSOAPメッセージをマップするWSDLファイルに必要です。各サービスには、情報モデルで定義されたデフォルトの語彙のセットが含まれている語彙ファイルのセットがあります。語彙ファイルは、IMS-GLCの語彙データ交換（VDEX）仕様のインスタンスです。

フィードバックは、[IMSパブリックフォーラム](#)に掲載される場合があります。

IMS Learning Information Services仕様書 - バージョン2.0.1最終仕様（2013年9月30日）

Learning Information Services v2.0.1、はv2.0仕様でのいくつかのマイナーエラーを訂正し、コアプロファイル定義を更新しました。仕様書セットは、情報モデル、結合文書、ベストプラクティスおよび実装のガイダンス、プロファイルおよび適合仕様、およびサポートファイルが含まれています。

[IMS Learning Information Servicesの概要](#)

[IMS Learning Information Services仕様書](#)

[Learning Information Servicesコアプロファイルアドプションの概要](#)

[Learning Information Servicesのコアプロファイル](#)

[Learning Information Servicesのベストプラクティスと実装ガイド](#)

[IMS Person Management Serviceの情報モデル](#)

[IMS Course Management Serviceの情報モデル](#)

[IMS Group Management Serviceの情報モデル](#)

[IMS Outcomes Management Serviceの情報モデル](#)

[IMS Membership Management Serviceの情報モデル](#)

[IMS Bulk Data Exchange Management Serviceの情報モデル](#)

[IMS Person Management ServiceのWSDL / XSDバインディング](#)

[IMS Course Management ServiceのWSDL / XSDバインディング](#)

[IMS Group Management ServiceのWSDL / XSDバインディング](#)

[IMS Outcomes Management ServiceのWSDL / XSDバインディング](#)

[IMS Membership Management ServiceのWSDL / XSDバインディング](#)

[IMS Bulk Data Exchange Management ServiceのWSDL / XSDバインディング](#)

WSDL / XSD（単一のファイルにまとめる）：

WSDLバインディングはSOAP実装と同期するためのものです。WSDLファイルは、WSDLv1.1を使用して表現し、WSDL / XSDファイルを組み合わせています。：

- [PersonManagementServicev2p0_SyncSingle_v1p0.wsdl](#)
- [CourseManagementServicev1p0_SyncSingle_v1p0.wsdl](#)
- [GroupManagementServicev2p0_SyncSingle_v1p0.wsdl](#)
- [OutcomesManagementServicev1p0_SyncSingle_v1p0.wsdl](#)
- [MembershipManagementServicev2p0_SyncSingle_v1p0.wsdl](#)

- [BulkDataExchangeManagementServicev1p0_SyncSingle_v1p0.wsdl](#)

XSD :

BDEMSで使用するための各データ構造のためのXSD :

- [imspms_filemodel_v2p0.xsd](#)
- [imscms_filemodel_v1p0.xsd](#)
- [imsgms_filemodel_v2p0.xsd](#)
- [imsoms_filemodel_v1p0.xsd](#)
- [imsmms_filemodel_v2p0.xsd](#)
- [imsbdemsFileData_v1p0.xsd](#)
- [imsepav1p0_v1p0.xsd](#)

語彙集 :

PMS語彙は以下のとおりです。

- フォーマットされたネームタイプの語彙 [formatnmtypevocabularyv1p0.xml](#);
- ネームタイプの語彙 [nametypevocabularyv1p0.xml](#);
- ネームのパートネームタイプの語彙 - [partnamevocabularyv1p0.xml](#);
- アドレスタイプの語彙 [addresstypevocabularyv1p0.xml](#);
- アドレスパートの語彙 [addresspartvocabularyv1p0p2.xml](#);
- コンタクト情報タイプの語彙 [contactinfotypevocabularyv1p0.xml](#);
- デモグラフィックタイプの語彙 [demographicstypevocabularyv1p0p2.xml](#);
- プレゼンテーションタイプの語彙 [representationtypevocabularyv1p0.xml](#);
- デモグラフィック情報タイプの語彙 [demographicinfovocabularyv1p0.xml](#);
- エンタープライズシステムロールタイプの語彙 [epriroletypevocabularyv1p0.xml](#);
- 教育機関ロールタイプの語彙 [institutionroletypevocabularyv1p0p2.xml](#);
- システムロールタイプの語彙 [systemrolevocabularyv1p0.xml](#);
- 登録情報タイプの語彙 [enrollmentinfovocabularyv1p0.xml](#);
- エージェントタイプの語彙 [agenttypevocabularyv1p0.xml](#);
- イベントデートタイプの語彙 [eventdatevocabularyv1p0.xml](#);
- Extensionデータタイプの語彙 [extensionvocabularyv1p0p2.xml](#);
- 言語コード [languagecodesvocabularyv1p0p2.xml](#). コードのセット (RFC4646に基づく) は、文字列の言語を識別するために使用されます。

CMSの語彙は、次のとおりです :

- ステータス値の語彙 [statusvocabularyv1p0.xml](#). 許可ステータスコード;
- Extensionデータ・タイプの語彙 [extensionvocabularyv1p0.xml](#). Extensionのためのデータ・タイプのセット;
- 言語コード [languagecodesvocabularyv1p0p2.xml](#). コードのセット (RFC4646に基づく) は、文字列の言語を識別するために使用されます。

OMSの語彙は、次のとおりです :

- ラインアイテムタイプの語彙 [lineitemtypevocabularyv1p0.xml](#);
- 結果ステータスの語彙 [statusofresultvocabularyv1p0.xml](#);
- リプレースステータスコードの語彙 [replacestatuscoevocabularyv1p0.xml](#);
- Extensionデータタイプの語彙 [extensionvocabularyv1p0.xml](#);
- 言語コード - [languagecodesvocabularyv1p0p2.xml](#). コードのセット (RFC4646に基づく) は、文字列の言語を識別するために使用されます。

MMSの語彙は、次のとおりです :

- Personが彼らのメンバーシップのために持つロールセットタイプの語彙 [roletypevocabularyv1p0p2.xml](#);
- Personが彼らのメンバーシップのために持つサブロールセットの語彙 [subrolevocabularyv1p0p2.xml](#);
- Extensionデータタイプの語彙 [extensionvocabularyv1p0p2.xml](#);
- 言語コード - [languagecodesvocabularyv1p0p2.xml](#). コードのセット (RFC4646に基づく) は、文字列の言語を識別するために使用されます。

BDEMS語彙は、次のとおりです :

- パラメータタイプの語彙 [parametertypevocabularyv1p0.xml](#);
- フィルタタイプの語彙 [filtertypevocabularyv1p0.xml](#);
- フィルタオブジェクトのためのフィルタタイプの語彙 [filtervalueobjectvocabularyv1p0.xml](#);
- トランザクション障害ステータスコードの語彙 [transactionfailstatusvocabularyv1p0.xml](#);

- 障害レポートをアナウンスする語彙 [announcefailurereportvocabularyv1p0.xml](#).

EDU-API

EDU-API は、「academic enterprise」仕様のIMファミリーの中の最新のものです。学習情報サービス (LIS) の総合的なモデリングを終了し、OneRosterとLTIのような広範な歴史と過去の努力を活かし、EDU-APIは、高等教育行政と教育を管理するトランザクションシステムと学習との間で、標準化されたデータの交換を可能にします。それはキャンパス内の効率を高めるだけでなく、スマートで、持続可能なアプリケーション、セキュアで責任のある方法で共有された生徒に関するデータに基づいてパーソナライズされた新世代の開発の促進を意味します。

2018年春に立ち上げたEDU-APIは、現在設計開発中で、IMSのライフサイクルに沿って、仕様が作られていくので、高等教育機関やサプライヤーコミュニティのメンバーが参加することを歓迎しています。詳しい情報は <https://imglobal.org/edu-api>で見つけることができます。

News

15 Feb 2019

[Building a Simplified Classroom Ecosystem that Supports Teachers and Students](#)

16 Jan 2019

[OneRoster Day One: Volusia's Intentional Approach \(Recorded Webinar\)](#)

15 Jan 2019

[IMS Global Learning Consortium Announces 2018 Learning Impact Report Setting the Stage for 2019 Learning Impact Awards Competition](#)

Specifications

[[view all...](#)]

08 Sep 2017

[OneRoster v1.1 Conformance Guide](#)

IMS Final Release

21 Apr 2017

[OneRoster v1.1 Final CSV Tables](#)

IMS Final Release

21 Apr 2017

[OneRoster v1.1 Final Best Practice and Implementation Guide](#)

IMS Final Release

Product Roadmap

[[view all...](#)]

04 Jun 2018

[Deprecation Notice for OneRoster 1.0](#)

Effective January 1, 2019, IMS Global will no longer offer new certifications for OneRoster 1.0. Re-certifications for OneRoster 1.0 will be accepted through December 31, 2018.

27 Nov 2017

[IMS Product Roadmap Summary Updated 11/27/2017](#)

This document reflects currently planned activities for IMS specifications and community activities for the upcoming period. Published at a point in time, the roadmap is expected to evolve as member needs and priorities change. Unscheduled projects typically move into a planned column

Tutorials and Guides

[[view all...](#)]

09 Jan 2018

[IMS Glossary of Terms](#)

IMS Global Glossary of Terms

27 Jan 2016

[OneRoster Video](#)

08 Jun 2015

[EduERP Alliance](#)

EduERP & OneRoster Alliance

Best Practices

[[view all...](#)]

29 Sep 2013

[IMS Global Learning Information Services Best Practice and Implementation Guide Version 2.0.1 Final](#)

IMS Final Release IMS Global Learning Information Services Best Practice and Implementation Guide

RFP Guidance and Checklists

[[view all...](#)]

27 Jul 2016

[OneRoster 1.1 Planning and Procurement Guide](#)

Valuable information for district and institutional leaders in the selection of technology products that are interoperable.

This page contains trademarks of the IMS Global Learning Consortium including the IMS Logos, Learning Tools Interoperability® (LTI®), Accessible Portable Item Protocol® (APIP®), Question and Test Interoperability® (QTI®), Common Cartridge® (CC®), AccessForAll™, OneRoster®, Caliper Analytics®, SensorAPI™ and Competencies and Academic Standards Exchange® (CASE®). For more information on the IMS trademark usage policy see [trademark policy page](#)

